



政務活動報告書

令和4年11月14日

〔会派名：無会派〕

| | | | |
|-------|--|-------|--|
| 代表者氏名 | 幸松 孝太郎  | 記録者氏名 | 幸松 孝太郎  |
| 研修者氏名 | 幸松 孝太郎 | | |
| 研修日 | 令和4年11月9日（水）～令和4年11月10日（木） | | |
| 研修先 | 東京都 株式会社メディアドゥ セミナールーム（オンライン受講） | | |
| 目的 | 第17回マニフェスト大賞の優秀賞を受賞した個人・団体が登壇し発表するトップランナーの受賞事例研修会を通じて、今後の名張市議会の改革や議員の役割などを考えることが目的である。 | | |

研修概要

(1) 開催要領

第17回マニフェスト大賞2022

トップランナーに学ぶ受賞事例研修会

- ・主催：マニフェスト大賞実行委員会
- ・共催：ローカル・マニフェスト推進連盟、早稲田大学マニフェスト研究所

第17回マニフェスト大賞授賞事例研修会



参加画像<名張市議・幸松>

(2) 2日間の発表プログラム

マニフェスト大賞は、地方自治体の議会・首長等や地域主権を支える市民等の、優れた活動を募集し、表彰することにより、地方創生を推進する方々に栄誉を与え、さらなる意欲向上を期するとともに、優れた取り組みが広く知られ、互いに競うようにまちづくりを進める「善政競争」の輪を拓げるために設けられたもの。

今回の第17回マニフェスト大賞は、応募総数3,133件から選ばれた下記の39の優秀賞を2日間にわたり、各賞とも3分間のプレゼン発表を学ぶ研修会であった。

11/9

躍進賞

『他自治体職員による議会改革アドバイザー制度を導入、「知見」「手法」「住民参加」による議会改革の早期実現』; 阿見町議会・阿見町議会事務局

ローカル・マニフェスト大賞<議員・会派の部>

『「決算」→「予算」の連続性・一体性を重視した決算審査のあり方』; みらい川崎市議会議員団

コミュニケーション戦略賞

『新しいスタイルの選挙運動を全国に広め、地方議員を目指す女性や若者を応援する「選挙チェンジチャレンジの会」』; つくば市議会議員 川久保 皆実

コミュニケーション戦略賞

『メタバースから政策提言～若者がオンラインで繋がり、デジタル政策を推進する～』; NPO 法人バーチャルライツ

コミュニケーション戦略賞

『トレンド技術で「お役所仕事」を変える～AI・アバター・メタバースなどの最新技術による行政DX～』; 東京都町田市議会

コミュニケーション戦略賞

『超高齢社会体験ゲーム「コミュニティコーピング」を活かした社会的処方の実現』; 一般社団法人コレカラ・サポート

グッドアイデア賞

『地銀×行政が取り組んだ地域の若者の課題解決「御前崎市リターン就職応援プロジェクト」』; 御前崎市

グッドアイデア賞

『公民連携で子ども食堂の運営を支援！「子ども食堂DX実証実験」』; 枚方市子ども未来部子ども青少年政策課

グッドアイデア賞

『パズルピース型町内会活動』; 唐湊山の手町内会会長 金子 陽飛

グッドアイデア賞

『難病者の社会参加白書づくりを基礎に、制度の狭間に置かれた難病者の就労を通じた社会参加の流れを創り出します』; 難病者の社会参加を考える研究会(運営元NPO法人両育わーど)

グッドアイデア賞

『交通事故の「見える化」でEBPMを促進～警察庁「交通事故統計情報のオープンデータ」を誰もが使えるBIツールで全国に公開～』; 横須賀市議会議員 小林 伸行

成果賞

『「扶養照会」不要のケースが9割超の自治体で「生活保護のしおり」に記載なし。調査がきっかけとなり、全国で改善が加速。』;「生活保護のしおり」書きっぷり調査プロジェクト

成果賞

『住民主体の認知症政策を実現する認知症条例の制定とプロセスの公開 ～認知症本人の参加とマルチステークホルダーの連携の実現～』;浦安市議会議員 斉藤 哲

成果賞

『たった一人の大学生の想いが実現。陳情採択、そして新座市が「ゼロカーボンシティ宣言」表明』
;俵 里奈

成果賞

『【全国初】県と市町が共創する「チーム愛媛」のDX～高度デジタル人材のシェアリングと誰も取り残さないデジタルデバインド対策～』;愛媛県・市町DX推進会議

躍進賞

『宮田村むらづくり基本条例に立脚した宮田村議会の取り組み』;宮田村議会

躍進賞

『形骸化した一部事務組合の改革』;浜田地区広域行政組合議会議長 牛尾 昭

11 / 10

ローカル・マニフェスト大賞<首長の部>

『市長の強いリーダーシップによる分権時代の自治体経営～マニフェスト選挙を起点とした計画の策定から4カ年の評価まで～』;小牧市長 山下 史守朗

ローカル・マニフェスト大賞<首長の部>

『公会計改革が自治体経営のあり方を変える。独自の公会計システムの確立により、組織力強化、行財政改革を実践』;四日市市長 森 智広

ローカル・マニフェスト大賞<首長の部>

『地域主義による新しい自治のカタチ（市民の力×地域の力×行政の力=∞：無限大）の確立に向けて』
;熊本市長 大西 一史

ローカル・マニフェスト大賞<首長の部>

『マニフェスト4段階活用、持続可能なまちづくりへの挑戦 ～中長期的なPDCAサイクルの深化をめざして～』;亀山市長 櫻井 義之

ローカル・マニフェスト大賞<議員・会派の部>

『びわこ大津草津景観推進協議会・びわこ東海道景観協議会による景観基本計画の策定と東海道の魅力を発信する統一案内看板の創造』;大津市議会議員 谷 祐治

ローカル・マニフェスト大賞<議員・会派の部>

『マニフェストを起点とした新たな市民との政策形成 ～DECIDIMの活用によるマニフェストサイクルの進化～』;よこはま自民党（自由民主党横浜市支部連合会・横浜市会自由民主党・無所属の会）

ローカル・マニフェスト大賞<議員・会派の部>

『選挙を起点とした政策達成状況の検証とその数値化 マニフェストに基づく15年間の取り組み』
;公明党荒川区議会議員団

ローカル・マニフェスト大賞<議員・会派の部>

『今年で11年目！改選毎に会派基本政策を策定&年に一度会派での議会活動報告会を開催。毎年、PDCAサ

イクルを回し続けています。』; 福岡市民クラブ

ローカル・マニフェスト大賞<市民・団体の部>

『群馬県と共同で「始動人」育成のため、お笑い芸人の先生が主権者教育の授業を全高校で実施 県内の18歳投票率は8%以上アップ』; 株式会社 笑下村塾

ローカル・マニフェスト大賞<市民・団体の部>

『選挙ポスター掲示場 全国総ウェブ化プロジェクト (2022年参議院選挙)』; ユスケンラボ 西久保 祐輔

ローカル・マニフェスト大賞<市民・団体の部>

『下宿大学生の投票用紙へのアクセス向上に向けた、不在者投票制度利用推進の試み』; 下宿生でも投票できますプロジェクト

ローカル・マニフェスト大賞<市民・団体の部>

『議会と市民の距離を近づけるコミュニティサイト「みんなでつくる飯塚市」を開設』; 飯塚シティズンシップ推進会

議会改革賞

『議会改革・活性化事業への外部評価導入に向けて』; 芽室町議会

議会改革賞

『「議長マニフェスト」 市民への約束 ～不断の議会改革に対する決意～』; 奥州市議会

議会改革賞

『体系的な議会政策サイクルと、ICT技術を活用した情報発信・交流で住民の声や災害に対応できる議会へ』; 柴田町議会

議会改革賞

『市民意見を起点とし「課題解決」につなげる政策サイクルのさらなる充実～通年議会の導入と議会活動評価モデルの取組～』; 会津若松市議会

議会改革賞

『多様性のある議会の実現へ』; 登別市議会

ローカル・マニフェスト大賞<首長の部>

『「公共計画」としてのマニフェストのサイクル化』; 大津町長 金田 英樹

ローカル・マニフェスト大賞<市民・団体の部>

『アニメ動画を用いた小学生段階からの主権者教育の実践とその効果検証』; 弘前大学教育学部准教授 蒔田 純

躍進賞

『全議員が2以上の委員会に所属し議会活動を行いチーム議会で議会改革を推進』; 菊川市議会

躍進賞

『美咲町議会版SDGs「持続可能な議会」を目指した誰一人取り残さない挑戦』; 美咲町議会

コミュニケーション戦略賞

『政治家に対するハラスメントの実態を啓発する「政治家ハラスメント白書」』; 一般社団法人ポリライオン×WOMANSHIFT

(3) 所感

今回の視察で印象に残った点は、市民活動団体の発表内容が素晴らしいものであった。社会を変えて行く取り組みは、非常に熱意を感じることができて、頭が下がるような思いがした。

その1つは、『パズルピース型町内会活動』の唐湊山の手町内会会長 金子 陽飛氏の発表は、全国初の高校生町内会長として就任後、今年で3年目と言う若さだ。多くの自治組織において加入率の低下、役員の担い手不足問題を抱えている点を提案した*パズルピース型町内会活動システムはこれらの課題を何とかしたいと考えたものである。絞り出したアイデアで、現在、同システムの町内会の ICT 及び DX 化（高齢者への普及）の推進を進めており、是非とも自治組織の役員の方々は、自分一人の力で何とかしようと思わず、多くの人に頼りながら、同活動を通してぜひ多くの人が活動を「我が事」として考えられるようになれば同システムを全国の町内会に向けて発信していきたいと抱負を語っていた。

(※この活動システムは、①町内会の各種役員に紐付けられている町内会の維持機能のための全体業務の把握をし、それらを一つ一つカードに記入（モジュール化）し、可視化させ、②その業務についての詳しい内実を記入した文章を作成し、③町内会員に開示したのち、各業務について主体的にやってもいいという方々をボランティアとして募り、④その仕事内容が書かれたカードと業務内容を示した文章をファイリングし、その業務を担当してもらう方法を行った。その際、業務をこなしてもらうだけではなく、その際の記録や気づき、注意点、さらにはアイデアなどを新たな文章としてファイリングしてもらうようにすることで、情報の収集およびノウハウの蓄積、さらには、その業務をいつでも他の誰かと変わることができるような柔軟な対応が可能となり、その結果、持続可能な町内会活動への道筋を開いたと考える。また 町内会の業務等が可視化されたことにより、より効果的なリフレクション（反省）が可能となり、これまで目的と手段が転倒しがちであった曖昧な町内会業務の見直しや、新たな業務へのチャレンジへの可能性が広がった。)

2つ目に、『群馬県と共同で主権者教育の授業を全高校で実施 県内の18歳投票率は8%以上アップ』(株)笑下村塾(東京都)の発表では、群馬県と連携し、今年度より主権者教育のプロジェクトを立ち上げた団体。県レベルで一斉に官民連携の授業を実施するのは、全国的にも今回が初めての試みである。お笑い芸人のタカマツナナが18歳選挙権導入の年に設立し、日本で唯一全国規模で主権者教育を行っている団体である。「笑いで世直し」をミッションとし、お笑い芸人が年間約2万人の若者へ主権者教育やSDGsの授業を届けている。今回は投票率というわかりやすい指標を取り上げたが、投票率を上げることがゴールではなく、若者の社会参画を押し進めるためには若者が「社会は変えられる」と感じ、実際に社会を変える体験を積み重ねていくことが一番大切だと考えているとのこと。そのため出張授業の枠にとどまらず、若者の声を届けるための新しい試みとして、高校生による県知事への提言会も企画している。「公共」が新設され、国内での主権者教育の重要度も高まりを見せており、今後も若者にツケを回さないため、日本の課題と向き合いながら主権者教育をブラッシュアップしていきたい。そして群馬県との事例を全国の自治体へ広げていきたい。この取り組みの結果、18歳投票率は大きく向上した。43.16%と総務省公表の全国平均を4%以上上回り、前回の参院選と比べても8%以上の大幅な増加となった。多くの選挙で投票率が低下し、特に若者の低投票率が全国的に大きな課題となるなかで、この結果は群馬県の若者へのアプローチが成功した証といえる。

3つ目は、『アニメ動画を用いた小学生段階からの主権者教育の実践とその効果検証』弘前大学教育学部時田 純准教授の発表は、「若者の政治離れ」が叫ばれて久しいが、その要因の一つは、自分の生活

に政治がどのように関わっているのか想像できず、「こうなれば良いのに」と普段何気なく思っている事柄と選挙での投票とを結びつけて考えられないという状況があるのではないか。だとすれば、できるだけ幼い頃から、我々の日常と政治とのつながりを分かりやすく子供たちに教える取り組みが必要である。そのために行う出前授業は、このような問題意識の下、開始された。児童にとっては数ある授業の中の一つであり、その内容はやがて忘れてしまう。しかし、頭の片隅にでも「選挙って大切かも」という意識が残っていれば、それだけで、実際に選挙権を手にした時の行動が異なってくるのではないかと考えている。民主主義の裾野を広げていくには、地道な活動が必要。そう信じて、この出前授業を続けていきたいと熱く語ってくれた。

次に、市長部門では、4人の市長がマニフェストについて発表した。三重県の四日市の森市長は、公認会計士ということもあり、会計制度、特に公会計制度を変えない限り変わらないと大学とタイアップしながら現在進めている取り組みは、政策の実現のために具体化が始まってきており、年次計画でP D C Aサイクルを回していくことができてきたとの講評もあった。その内の一人を紹介すると、『市長の強いリーダーシップによる分権時代の自治体経営～マニフェスト選挙を起点とした計画の策定から4カ年の評価まで～』について 山下 史守朗小牧市長の発表では、分権時代に相応しい自治体経営のあるべき姿を模索し、有識者を交えて議論を重ね、新しい形の総合計画を策定したと語られた。この新しい総合計画は、いくつかの点で挑戦的な特徴を持つ。その一つが、市民に選ばれた市長がその責任において優先的に資源を投入し実施する「市政戦略編」と、行政が着実に実施する「分野別計画編」を分けたことである。とかく総花的になりがちな総合計画であるが、市長のリーダーシップと責任において目指すまちづくりを前面に押し出すメリハリある計画とした。また、総合計画の策定は、多くの自治体において有識者や市民代表による策定委員会などで審議されるのが通例であるが、市政戦略編については諮問の対象外とし、市長の権限と責任において策定し、実施することを明確にした。なお、小牧市では、自治基本条例で市長と議会それぞれの権限と責任を明確にしているが、計画の策定は市長の権限であり、議会の議決を要しない。権限と責任は表裏一体であるべきであり、二元代表制における首長と議会の役割分担を明確にすること、特に 計画策定における首長の権限と責任を明確にし、首長がリーダーシップを発揮できる環境を整備することは、マニフェスト選挙による民主主義が機能・成熟するために不可欠なことだと考えているとのことであった。

議会部門では、今年からの新設した議会改革賞5つの議会の一つ奥州市議会の発表を紹介すると「議長マニフェスト」 市民への約束 ～不断の議会改革に対する決意～』について、この議長マニフェストは、議長選挙時の所信表明に基づき、議会改革に不断の努力を重ね、最大目的たる住民福祉の向上に繋げるため、議員、事務局職員、市民の皆さんと「チーム奥州市議会」として取り組む決意から公表したもので、基本的な考え方は、“更なる改革により市民に開かれ存在感のある議会を目指す” というものである。

- 議会活動の「見える化」→工程表公表で実施済み。
- 議会基本条例P D C Aサイクルシート・行動計画の「具現化」→計画公表で着手済み。
- 議会運営や政策決定等の「説明責任」→情報公開の徹底で実施済み。

そして、重点項目として、① **奥州市議会の「見える化」の推進に努めるでは、**

- 実行計画の策定による実行目標と工程の明確化→行動計画と工程表の公表で実施済み。
- 各委員会の活動状況等を分かりやすく見える化→全活動内容のSNS発信で実施済み。
- 議会改革の取り組み状況とアウトカム（市民への効果等）の評価と公表→第三者検証を踏まえて随

時進捗を公表予定。

- 議会ICT推進方針の明確化→オンライン本会議を見据えた機器・体制整備で着手済み。

② 広報・広聴活動の充実・強化を図るでは、

- 広報と広聴機能の一体的な取り組み体制の整備→組織を「議会広聴広報委員会」に改編済み。
- 様々な世代の市民参画と多様な市民意見の把握→ワールドカフェの取り組みの継続発展。
- 広報の内容の工夫と充実を図り市民に分かりやすい情報発信→イラストを多用した市議会だよりに変更済みで市民からも好評価を得ているが、今年度更にリニューアル予定。

③ 政策立案・政策提言サイクルの充実・強化を図るでは、

- 決算・予算審査の連動による政策提言サイクルの構築→今年度から決算認定時における附帯決議で政策決議提案を実施しており、新年度予算審査で実行状況をチェックするサイクルを構築済み。
- 広聴活動により把握した市民意見を反映させる仕組みづくり→ワールドカフェでの意見を政策提言化する取り組みの継続発展。
- 各常任委員会における継続した政策提言の実施と提出済提言のフォロー→専門的な調査による政策提言と事後チェックとしてのフォローアップの継続発展。

④ 議員間討議の制度化による十分な審議と市民への説明責任に努めるでは、

- 対話をベースにした議員間討議の制度化→ワールドカフェによる事前の論点整理を踏まえた議員間討議のルール制度化に着手。
- 重要課題等は十分な審議を尽くした合意形成に努め結論に至る経過の明確化→重要課題を含めた全ての会議の見える化に着手。

⑤ 議員の成り手不足解消の調査研究と対策の実施、主権者教育の推進に努めるでは、

- 議員の成り手不足解消に向けた調査研究と対策の実施→議員の活動実態調査と先進事例の調査研究に着手。
- 議員定数及び議員報酬の在り方の調査研究→成り手不足とセットでの先進事例の調査研究に着手。
- 小中高生・若者・女性との模擬議会やワールドカフェの実施→開催の在り方検討に着手。
- 議場・議会見学会の実施→課題研究、長期休業などでの活用検討に着手。
- 主権者教育の推進 →市議会だよりの高校配付時における授業での議会傍聴依頼の継続発展。

最後に、北川委員長は閉会挨拶において“議会改革は、2006年の5月に北海道栗山町の議会基本条例の制定以来、議会改革はその本格的なステージに入ったという風なことを言われてきたけれども、特に、今回、この議会改革賞というのを新設したわけですけども、受賞した5つの議会は、いずれも、その改革をしてきたが、さらに改革を進めると聞いて、やっぱり、その改革を進めるってこと自体が人が変わっても、議会のそのDNAになりつつあるような印象を受けた。もちろん、そのサイクルを回していくのは大事ですけども自分たちのやってる取り組みが、かなりその住民に評価され、住民が真の意味で審査委員の江藤先生がよく言うように、住民福祉の向上にいかにかその繋がっているかっていうところを視野に入れた取り組みになっているのかなっていう風なことが大切である。その意味では、今回の発表を聞いていて感じるのは、議会における議会改革は第2ステージに入ってるなっていう風な印象を受けた。”と述べた。

今回の視察を通して、この第2ステージに名張市議会も入ってきていると痛感しており、これまでもチーム議会として様々な議会改革に取り組んでいるが、更なる議会改革に取り組んでいく必要性を考えることができた有意義な研修であった。

以上